

第3回 新潟市自転車利用環境推進委員会 議事概要

○日時 令和5年12月25日(月) 14:00~16:20

○場所 市役所本館6階 講堂2・3

○出席者

委員

() は代理出席

区分	現職	氏名	出席	欠席
学識経験者	法政大学デザイン工学部建築学科 教授	いわさ あきひこ 岩佐 明彦	○	
	茨城大学理工研究科 名誉教授	きん としあき 金 利昭	○	
団体代表	NPO法人 自転車活用推進研究会 理事長	こばやし しげき 小林 成基		○
	「自転車のまち”新潟”」の会 会長	わくい ひでゆき 涌井 秀行	○	
	一般社団法人 にいがたレンタサイクル 代表理事	たかはし まさよし 高橋 正良	○	
	新潟ゆとりロード協議会 委員	くりやま やすこ 栗山 靖子	○	
	NPO法人 まちづくり学校 事業推進部 コーディネーター	なかむら みか 中村 美香	○	
	新潟県交通安全協会女性部長	いその ひろこ 磯野 弘子	○	
関係行政機関	国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所 調査課長	すいどう りゅうじ 水道 龍次	○	
	新潟県警察本部交通部 交通規制課長 (新潟県警察本部交通部 交通規制課長補佐)	なかがわ けんいち 中川 建市 (齋藤 隼人)	○	
その他市長が 必要と認める者	NPO法人はぐハグ 副理事長	いまい まなみ 今井 麻奈美	○	
	ライフカラープランナー	ますこ かずみ 増子 和美	○	

オブザーバー

区分	現職	氏名	出席	欠席
関係団体 (公共交通機関 等)	東日本旅客鉄道(株) 新潟支社 総務部 企画戦略室長	よしだ つとむ 吉田 勤		○
	新潟交通(株)乗合バス部 運転保安課長	かねこ ひでかず 金子 英一	○	
	「自転車のまち”新潟”」の会 会員	いわま まさよし 岩間 正吉	○	

○配布資料

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・座席表
- ・第3回 新潟市自転車利用環境推進委員会 資料
- ・参考資料1 新潟市自転車利用環境計画 (素案)
- ・参考資料2 第1、2回委員会での意見と対応について
- ・「新潟市自転車利用環境推進委員会」開催要項
- ・にいがた2kmシェアサイクルに関する資料 (高橋委員提供資料)

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) これまでの振り返り

(2) 自転車のルールに関するアンケート調査結果

[事務局]

- ・配布資料について説明。

[岩佐委員長]

- ・自転車の安全利用に係る「はしる」と「まもる」を重視していくということについて改めて説明いただいた。
- ・アンケート結果では、自転車利用者の視点だけでなく、自動車ドライバーや歩行者の立場から見た自転車の実態について参考になる回答であったと思う。

[増子委員]

- ・中高生の自転車事故発生率が高いと聞いたが、アンケートの対象が20代からなのは何故か。

[事務局]

- ・10代の回答が集まらなかったためである。ただ、今回のアンケートはドライバーの視点での回答も得ることについて前回の委員会で指摘をいただいていた。また、歩行者やドライバーの視点では、客観的に自転車の危険な行為を確認しており、そこには10代も含まれていると考えているため、全く無視したわけではない。

[増子委員]

- ・今回の設問ではやはり10代の回答が欲しいと思う。学校での啓発活動にも役立つのではないか。
- ・自転車保険に関するアンケートだが、何故加入しないのかという設問もあると、今後の加入促進に繋がるのではないかと思う。次回の機会があれば設問として設けてもいいのではないか。

[事務局]

- ・アンケートの対象年齢は今後改善できるようにしたい。
- ・自転車保険はすでに義務化されているため、加入していない理由まで踏み込んだ設問は用意しなかった。こちらも今後改善していきたい。

[増子委員]

- ・アンケート結果を見ると、色々なデータが出てきたと思うので、これを深めていくと問題点が見えてくるのではないかと思う。

[岩佐委員長]

- ・これはインターネットで調査パネルに依頼したものなのか。

[事務局]

- ・そうである。

[岩佐委員長]

- ・そうすると今後心配なのは、この方法では若者の回答が得られないということである。これは新潟市全体の課題かもしれないが、若者の声を拾う方法がないということである。

[金委員]

- ・これは大手の調査会社に依頼したものなのか。

[事務局]

- ・そうである。

[金委員]

- ・それにしては回答数が少なく感じる。

[オブザーバー 岩間さん]

- ・先日の報道で信号の無い横断歩道での車の一時停止率は新潟県がワースト1位であった。ヘルメットの着用率もワースト1位だが、このワースト1位を早く脱却して欲しい。
- ・歩く人は大変だと思うと同時に、自動車にも自転車にも共通する話題なので、取り上げる場が無いということにならないよう、本委員会の目標値の一つとして、この横断歩道での車の一時停止率もつけ加え、この場で目標なり改善なりを取り上げたらどうかという提案である。

[金委員]

- ・信号の無い横断歩道での車の一時停止率は数年前にJAFから公表されて全国的にニュースになった。それで騒がれただけあって、全国的には段々と上昇している。この中で新潟だけ減少しており、そこが問題である。

[岩佐委員長]

- ・何か分析結果は無いのか。上昇したところの取り組みなどもご存じであれば教えてほしい。

[金委員]

- ・長野県はずっと1位なのだが、かつては非常に悪かったため、全県で頑張ったと聞いている。関西などもそうである。キャンペーンなどを行いつつ、少しずつ上げてきたところである。

[岩佐委員長]

- ・この最下位というのは恥ずかしいところであるが、はっきり言った方がショック療法になるのかもしれない。

[金委員]

- ・問題はこの事例だけでは無くて、交通マナーに対する姿勢だと思う。自転車のマナー違反と恐らく連動している。

[高橋委員]

- ・今回のアンケートで自転車は、歩行者からは歩道を走りまくる、スピードを出す危険な乗り物を運転する、車からはルールを守らないで飛び出す、携帯電話しながら走ると思われている傾向がある。全国的にもこのようなアンケートでは同様の傾向になるのだろうか。

[岩佐委員長]

- ・自転車が歩道を走ることは全国的にも問題になっていて、今後、青切符として罰金が取られるようになる。今までは注意しても守らない人がいて、事故も増えていた。新潟に限らない話だとは思いますが、認識の差が各都道府県では違うのかもしれない。何か補足はあるか。

[事務局]

- ・他県の事例は把握できていない。

[高橋委員]

- ・全国的にはどうなのか。全国で自転車乗りはこういう風に思われているということにまず我々が意識をもって、次の施策を考えていく必要がある。
- ・自転車保険の話で言えば、新潟県の条例で義務化されたが、果たしてどれだけの人に認知されているのかわからない。

- ・ヘルメットは今年の4月から努力義務となったが、市民にどんな風に意識されているのか、意識されていなかったら、どんな啓発活動をすればいいのか、ということを検討する委員会だと思っている。その辺りはもう少し時間が必要なのか、それとも事務局のほうで考えていることがあるのか、そこをお聞きしたい。

[岩佐委員長]

- ・今回のアンケートからは、ヘルメットは義務ではないからという理由でまだ検討していない人が6割いる。保険の加入に関してもそうである。他県と比べてではなくて、事実として芳しくない状況であるというのが共通認識でいいと思う。他県との比較ではなく、現状としてあまり良い状態でないと思うが、いかがだろうか。

[高橋委員]

- ・自転車保険は未だに入っていないお客様を見かける。ヘルメットに関しても、4月以前から販売数が増え、ヘルメットを被ろうと相談に来られたり、実際に購入されたりするのだが、実態がよくわからない。レンタサイクルでも貸し出し用のヘルメットを準備して被っていただく努力をしているのだが、実態がわからない。現場でもわからない。

[事務局]

- ・ヘルメットについては、県民生活課や教育委員会など関係する部署による会議が始まったと情報が届いている。そちらでも細かく分析していくと思っているので、情報を共有していきたい。

[岩佐委員長]

- ・アンケートに関するデータは今回、委員の方々も初めてご覧になったと思うのだが、深刻な状況であるということが認識されたということでリリースされて構わないだろうか。

[事務局]

- ・実態がわからないところを見ていくということだろうか。

[岩佐委員長]

- ・実態は今回のアンケートなのではないか。このアンケートから、かなり深刻な状態だという理解でいいだろうか。

[金委員]

- ・ドライバーから見ると自転車は邪魔者で、歩行者からも歩道では邪魔者ということなのだが、自転車通行帯の整備が進んできた結果、ドライバーからは自転車の走行する場所がわかりやすくなり、ドライバーの反応は良くなってきていると思う。歩行者からは、自転車が邪魔者というのは相変わらずなため、青切符が導入されるようになっている。
- ・アンケートの指摘をしておきたいのだが、自転車に乗る方は、自転車走行空間を増やしていくべきという回答が49%である。これは、人々の賛同を得られたと解釈していいのだろうか。
- ・もう一つ、歩行者が少なく誰にも迷惑がかからないから歩道を走っていると回答されている。今までの車道に降ろすという政策は、皆から賛同を得られた上で進めていっていいと解釈するのか、そうではないのか、かなりグレーなところである。
- ・市民の賛同を得られていることとは別に、自転車に関する取り組みはもっと上位の計画で位置付けがあるから、とりあえずはもう少し進めて自転車に対する理解を深めていくということになるのか。これまでにやった施策の大きな総括、このままやっていいのかどうかというところが本編に入っていないのではないかと。それがあった方がいい。

[岩佐委員長]

- ・要するに、自転車が出るといふ政策が何となく進んでいっているけれども、これがどのくらいコンセンサスを取った上でやっているのかということかと思う。それは、今後の進め方に関わる場所なので、啓発が先か更に促進すべきなのかということかと思う。追って施策の場所でもう一度確認したい。

[中村委員]

- ・アンケート結果のイヤホンをしてながら走ることに、数字が低いように思える。学生は両耳塞いでイヤホンをしてながら走っている。主婦も冬になるとイヤーマフをしていふと思う。聴覚障がいの方や高齢者で補聴器を付けていふ方はイヤホンをしていふと勘違いされやすく、何か違ふアクションをした方がいふのではないかというような相談も出てきていふ。このイヤホンをしてながら走るというの、どういふ属性の方々なのかということも知っておくと、意識啓発をする上で役に立つのではないか。

[岩佐委員長]

- ・補聴器をされていふ方とイヤホンをしていふ方を見極めにくいということか。イヤホンのようなものをしていふからNGというわけではなく、中にはそれが補助として必要な人もいふ。

[金委員]

- ・アンケートの設問で聞いた迷惑行為は、全部禁止行為である。回答が少ないからいいのではなく、少なくとも絶対にやってはいけないことである。そこを間違えないでほしい。

[岩佐委員長]

- ・補聴器を付けていふ方はイヤホンではないので違反行為ではない。それが、咎められる理由になってしまうのではないかということか。

[中村委員]

- ・聴覚障がいの方は、警察に呼び止められると手話でしか話せないで、その時点で警察の方も気づく。それでもやはり呼び止められるのが怖いと聞いている。後ろ姿だけでは判断できない。イヤーマフも北西の風が強い新潟市では必然というような自転車に乗る方もいふ。実態を把握した上で啓発をしていくこと重要であると思う。
- ・自転車の保険加入は年間どのくらいの価格がかかるのか。実態がわかれば教えてほしい。

[高橋委員]

- ・我々みたいな整備士がちゃんと点検して保険をかける場合は、店によって価格が違ふのだが、1,500円~2,000円程度である。店によっては新車を買った割引としてサービスで付けるところもある。これは、TS保険という。点検整備をして合格したら保険をかけられるというものである。その他にも、車の保険オプションで付けられるものもあるが、それは点検が含まれていない。自転車の整備とは関わりの無い所で保険をかけられるものもある、というのが実態である。

[岩佐委員長]

- ・義務化であるので、自転車を買うのと同じく、保険に入るといふのはコストがかかるものだと認識していくしかないのかと思う。

[今井委員]

- ・このアンケートの中で、保険の加入が義務だということを知っているかどうかまでは確認してないのか。今回のアンケートの結果で、保険に加入してない人がここまで多いのがショックである。私はこどもが中学生で自転車登校のエリアもあるため、学校から何回もお知らせが届き、絶対に入らなくてはいけないものだという認識があった。義務化されたのにショッキングな数値だと思う。

- ・学生のこどもがいる家はそういう情報が入ってくるが、そうではない家は情報が入ってくるチャンネルがそもそもないのかと。ニュースとかでは報道されているが、テレビを見ていなかったり、新聞を取っていなかったりする家も増えている中で、どの世代にも伝わるような情報発信の工夫が必要だと感じた。

[事務局]

- ・参考資料に自転車保険加入義務のルールについての認知度の結果がある。今回のアンケートでは79%の方が義務化について認識している。

[岩佐委員長]

- ・啓発活動についても、色々な方法でピンポイントに然るべきところに届いているかというのを確認しながらやったほうがいい。

(3) 計画改訂のポイント

[事務局]

- ・配布資料について説明。

[岩佐委員長]

- ・「はしる」は警察との調整を踏まえた路線の見直しなどについて、「まもる」はアンケート結果を参考にした上でポイントを絞った啓発活動の具体案だと思う。
- ・ヘルメットの着用率については、先進県の着用率がどのくらいなのかを把握した上で、そこも今後進んでいくことを考えると、目標設定としてはあり得るのかと思う。

[栗山委員]

- ・啓発活動のところで、学校や地域の自転車教室の開催と記載してあるが、実際これは出来るのか。数値的に今1やっているものを2にするとか。そういったことはできるのか。

[事務局]

- ・啓発活動については新潟市交通安全計画と連動させて記載している。交通安全教室の開催回数なども工夫されていくのかと考えている。内部で調整を図りたい。

[岩佐委員長]

- ・交通安全教室の開催回数や参加者については、目標設定しやすいものだと思う。啓発活動が重点であるのであれば、わかりやすい数字でお願いしたい。

[涌井委員]

- ・私個人としても啓発活動や交通安全教室を行っているのだが、昨今の学校の働き方改革で、何故学校で教えなければいけないのかと言われることもある。自転車のハードユーザーである高校生とかにいかにかえるかということについては、一方的に歩行者側からこう見られているとか、車側からこう見られているとか教えるのでは無くて、お互い意見交換させて、愚痴ではないがこうしたらいいというのを意見していくことが良いと思っている。
- ・自転車の方が弱者だとか主張するのではなく、道路はロードシェアリングとって互いに皆で譲り合って走るものであるが、新潟市は自動車を優先するような街づくりになっているため、自転車利用者も文句を持っているはずである。そういった意見の吸い上げも必要なのではないか。
- ・学校であればヘルメットや雨具を置く場所を確保できないものかと。駐輪場についても屋根が無いなど、自転車が利用しやすい環境になっていない。自転車が利用しやすいような形に整備していただくようなアイデアを計画に記載してほしい。

- ・率先して市の職員がヘルメットを着用することや、ヘルメットや雨具など個人で何とかしているものをやりやすいようにするなど、教育啓発活動というよりも、お互いどうしたらいいか意見交換するような形で計画を立てていただきたい。

[岩佐委員長]

- ・自転車のルールに関することは、総合学習にも良い教材だと思う。ヘルメットや道路を分け合って使うことなど、これからの社会を考える上で一番身近なテーマではないかと思う。
- ・子どもたちに一方的に教室で「危ないよ」といっても中々理解できないが、何故このようなルールがあつて、自分たちは守らなければいけないのかなど、総合学習のようなテーマで話し合ったりすると良いのでは無いかと思った。

[涌井委員]

- ・本当に必要とされている理由が重要なのだと思う。保険についても、義務化されているのはあくまで賠償の保険である。保険に入っているから整備していない自転車でも大丈夫というような状態である。健康保険であれば、高い保険に入っているから検査受けなくても大丈夫と言っているようなものである。子どもがもし死んだら何億入るから交通安全の教育はしなくていい、そんなことはない。保険がそういう反社会的な制度になってしまう。
- ・オランダなどの本とかコラムを読むと、自転車が多く走っているけど、半分以上はヘルメットを被っていない。海外では車の方が弱者に対する愛があつたりする。日本では車から守るために自己防衛的にヘルメットを着用しようということであれば、ヘルメットをした方が安全な感じがするが、弱者に対する配慮をするような形も並行していただかないと、単に守るだけのものを進められるのはちょっと納得がいかない部分もあるので、そういったものも頭に入れていただきたい。

[増子委員]

- ・普段、自転車通学をしている子どもたちをよく目にするのだが、ヘルメットの着用率が非常に低いと思っている。学校にヘルメットを置くような場所があるのか等、色々な要因があるように感じる。アンケートを行う機会を増やして、そういった問題点も少なくしていけるのかなと思う。
- ・愛媛県は自転車ヘルメットの着用率が60%で高いと聞いている。中学生の着用率は100%に達したという記事もあつた。愛媛県の自転車利用の取り組みは、インターネットサイトを見ていても参考になることが多いと感じた。行政と民間が一体となって取り組む協会のインターネットサイトで、普段自転車をそんなに乗るわけではない私でも非常に面白いと思った。条例とかマナーの啓発は無論なのだが、自転車を利用する方々の情報収集に非常に利用しやすい工夫がされていると感じる。
- ・自転車利用に関した幅広い情報サイトとか、SNS等を利用したりするか、販売業者の協力を得たイベント企画やヘルメットの新商品の紹介などを行ってもいいと思う。
- ・その中でアンケートをするのも良いと思うし、歩行者の立場と自転車の立場で話し合いをしても面白い。ヘルメットを手にとったり試したりする機会とか、そういった機会を増やししながら、今までに無い施策を打ち出していかないと最下位は脱出できないのではないかな。

[岩佐委員長]

- ・良いところにはやり方があると思う。グッド・プラクティスみたいなものを教えてもらうしかない。何らかの方法で共有していくことも必要なのではないかな。

[事務局]

- ・愛媛県は学生が自転車事故で連続して亡くなられた事例があつて、教育委員会が非常に重く取り上げて一気に義務化となり、全国でトップレベルの着用率になったと聞いている。ただ、新潟県内で

今そこまで進めるのは難しいとも聞いている。部署は違うのだが、関係機関の会議も始まったと聞いているので、愛媛県の事例なども参考にされるのではないかと聞いている。

[岩佐委員長]

- ・背景もそうだが、具体的なヒントというか、どういうことをやっているかなど非常に参考にできるところがあると思うので、是非共有できればと思う。

[今井委員]

- ・先ほど涌井委員が話していたように、中高生に対話型の総合学習を取り入れられるようになると、一気にその認識が進むのではないかと思う。
- ・小中学校は、学年ごとに学年行事をPTAが計画しており、小学校低学年だと親子レクリエーションみたいなものが多いのだが、その中で自転車関係のことが取り上げられると保護者も聞く機会があるので、そういった所に提案できたりすると導入しやすいのかと思う。
- ・全体的に色々なルールを進めていこうとすると、良くないことを取り締まって直すようなことがあるのだが、お互い様とかお陰様とみたいな優しい気持ちを持っていると良いのではないだろうか。厳しくするよりは、どうしたら優しい気持ちがシェア出来るのかという方向に考えていってほしい。街頭指導でも出来ている人にgoodと伝えられるようになってもいい。
- ・中高生がヘルメットはダサいから被りたくないという気持ちはわかる。それでも守っている子はいらざるはずなので、そういう子達を大人がいいね、と言ってあげられるようにしたい。また、そういう気持ちで関わっている人が増えると、良い方向に守っている人がより守るようになるし、そういう人たちを見て、やろうと思う人が増えるのかと思う。

[岩佐委員長]

- ・やはりこれはテーマとして広がりそうである。今回、最下位というのはかなりショッキングな数字で新聞でも報じられているが、これらを公表して、だからどうしようかという投げかけは必要なのではないかと思う。

[栗山委員]

- ・今の話の中で、PTA行事の中に取り入れるという話があったのだが、どこに行けば対応してくれるのかがわからない。この計画策定は市役所が所管しているが、指導する人は警察であるため、どこかの窓口に行けばいいのかが明確になっていないと、わからないで終わってしまう。

[岩佐委員長]

- ・PTAの方が啓発活動とかをプログラムでやろうと思っても、誰に依頼すればいいかわからないということか。わかりやすいフローであったりポスターがあったりするといいのかもしれない。

[金委員]

- ・例えば今の場合はどこか窓口なのか。

[事務局]

- ・自転車関係は多岐に渡るので一概には言えない。

[金委員]

- ・それであれば、自転車関係の一括の窓口のようなものがあるといい。土木総務課がその担当になるのではないか。

[岩佐委員長]

- ・色々な啓発が注目されているけれども、啓発の発信源みたいな窓口が少し不明確なところが課題としてあるのではないかと。

[中川委員（代理出席：齋藤交通規制課長補佐）]

- ・秋葉区では、区で交通安全の話を取りまとめており、それを警察署に持ってきてもらい、それを受けて警察が指導に行くようになっている。警察の方は交通課が窓口になっている。

[岩佐委員長]

- ・秋葉区は自転車の盗難防止の札を工夫して、啓発に成功したというような報道を聞いた。

[中川委員（代理出席：齋藤交通規制課長補佐）]

- ・他にも地元のお菓子屋さんとコラボレーションして、ヘルメットに見立てたクッキーを配布して、ヘルメットを被りましょうというキャンペーンも行ってた。
- ・頑張ろう、頑張ろう、だけでは中々守るのも難しいと思うので、ちょっとでも気を引いてもらうような取り組みを考えながら工夫している。参考にしてほしい。

[岩佐委員長]

- ・警察の方でそういうグッド・プラクティスのようなものは共有されているのか。

[中川委員（代理出席：齋藤交通規制課長補佐）]

- ・各県の情報とかも参考にしながら啓発活動を行うこともある。秋葉区の場合は、秋葉区のものを使いたいという気持ちと、より身近なものを使いながら啓発を考えていた。
- ・子どもたちが使用しているタブレットで情報を発信すると、タブレットを持ち帰って親御さんも見てくれる。こどもの教育にもなるし、親御さんの教育にもなる。こどもの時に習った自転車の乗り方と今の乗り方が違う部分もあるので、再教育にも繋がる。そういうことも通じて、全体的に交通安全が守られていく形になればいいと思う。

[オブザーバー 岩間さん]

- ・先日の市議会で、自転車の窓口について質問された時、市長は前向きに検討したいと回答していた。ぜひこの会の雰囲気を出長にも伝えてもらい、自転車の窓口はどこかという市民からの質問に対して答えられるよう検討いただければと思う。

[磯野委員]

- ・西蒲区では自転車教室を交通指導員の方が毎年行っている。小さいうちは何でもそうなのだと聞いてくれる。中学生はヘルメット支給なので全員被っているが、高校生になると被っていない。被らない理由は理解できる。オシャレではないし、髪型も崩れる。価格も高い。キャップ式や日焼け防止のハット式があると良いと思っている。そういった商品が広まってくれることを期待している。

[金委員]

- ・先ほどのアンケートでは7割が車道の左側を走行しているという回答だったが、実際の調査では4割だった。実態とアンケートではこれだけ違うというところ踏まえて考える必要がある。
- ・実際に自分で意識していることと実際の行動では違う。ゆっくり走っているつもりでも、15～20km/hで走っていることもある。自転車は歩行者に優しく走っているつもりでも、歩行者は凄く飛ばしていて怖いという歩行者と自転車の意識ギャップがある。ギャップについて留意してほしい。
- ・路上駐車を邪魔に感じる時があるは51%の回答であり、これを大きく見るか小さく見るかなのだが、この路上駐車に関しては検討の中でどう考えているのか。大都市では大きな問題になっている。

[事務局]

- ・路上駐車に関しては、「まもる」のところで触れている。具体的には警察庁や国交省の方で議論しているという情報が入ってきているが、具体的な方向性の情報は入ってきていないため、明確にこの計画の中に盛り込むことは今の段階では出来ていない状況である。

[金委員]

- ・警察の方に補足してほしいのだが、この計画はこれから7～8年の計画である。全体で51%の方が邪魔だと感じているのであれば、現場で確認する必要があると思う。
- ・先ほども話したが、意識調査と現地では異なっているため、現地で路上駐車がどのくらい発生していて、どういう影響を及ぼしていて、どんな迷惑を感じている人がいるのか、それとも意識調査ほど酷い状態ではないのか確認する必要がある。それが問題となっているのであれば、道路の実態を見て、それをどのように対策するか確認しなければいけない。路上駐車の状況を教えてほしい。

[中川委員（代理出席：齋藤交通規制課長補佐）]

- ・金委員の指摘の通り、せっかく整備しても路上駐車の車両がいることによって自転車が正しく走れないというのはあってはならないと考えている。現状は警察の方もしっかり確認しながら取り締まりすべきところはするべきと思っている。現状をしっかりと把握した上で対応していきたい。

[金委員]

- ・改訂のポイントの中で、整備が進まない路線を自歩道活用路線とし、代替路線を設定するとあるが、十分検討した上で自歩道に設定したのであれば自歩道というだけで悪いとは思っていない。ただ、十分な検討も無しに自歩道へ設定するというのは賛成できない。
- ・自歩道活用路線を普通に設定できるのであれば、何もこんなに苦勞していない。今まで自歩道で散々起こってきた問題は起こらないのか。このような駅前停車場道路をいくつか見てきているが、渋滞しているため、案外車の速度は低い。車道を自転車が走行しても問題はないところも多い。その辺りはどうなのか。後で細かいところを教えて欲しい。
- ・先ほどの市民意識調査の中で、「歩行者が少なくて誰にも迷惑がかからなかったら歩道でもいいのではないか」という回答があったため、事務局もそういう風に考えているのかと思ってしまう。もしも自歩道でいいのであれば、誰もこんなに苦勞していない。「歩行者が少なくて誰にも迷惑がかからなかったら歩道でもいいのではないか」と市民の意識があった時に、これをどう捉えるのかということなのである。「その通りだね」ということなのか、「いや、それでも違うんだ」という風に考えるのか。これはかなり大事なことだと思う。そこがしっかりしていないと、多分安易にどんどん自歩道とか代替路線とかになってしまう。

[岩佐委員長]

- ・確かに、散々今までルールを改訂してやってきたのに、結局走行空間の整備が命題になっていて、そこが抜け道になってしまうのは少し問題である。

[涌井委員]

- ・この亀田の路線は、確かに自動車交通量は多いのだが、金委員の指摘の通り自動車のスピードは遅い。どうしても警察や行政の方は自動車がスムーズにスピードを出してどンドンと通過する方が交通の流れが良いというイメージで、それを最優先している。
- ・それで裏道を代替路線として考えたりする時に、裏道だと逆に信号が無い場合もあるので、スピードを出す自動車がいたりする。そういった意味で車をスムーズに通すという考えは、車と自転車の分担率を考える時にただ単に分担率というのではなく、車に対する抑制と言うか、あまりにも自動車を優先しているところも見直すことも考えないといけない。
- ・ヨーロッパなどでは、町中に車が入れないため不便であるが、その分、人が歩きやすい街づくりを成功している。新潟はこれまで車を優先してきたため、ドライバーの意識として横断歩道で一時停止しないことなどに繋がっていると思う。

- ・あまりにも歩道に自転車が通るから、逆に歩道に自転車が走りにくくしたらどうだと話したことがあった気がするが、同じように自動車を少し走りにくくするとか、自動車よりも自転車の方が移動しやすい形での街づくりも考えていただきたい。

[岩佐委員長]

- ・確かにそこは重要なところである。これから高齢化が進んでくると免許の返納が増えてくる。まだあまり普及していないが、自転車ではなく自動車でもない第3の移動手段みたいなものが現れたりすることを考えると、今みたいに自動車がスムーズに走ることを念頭に置いておくと色々問題が出るかもしれない。
- ・これまでの経緯を考えると、方針として不連続の解消も重要だけど、もう少し総合的な判断も必要かもしれない。勘案するというか、その辺りを計画に記載しないと、目標達成のために益々代替路線等の指定が増えかねない。自動車以外の車両が共存していくことを考えると、重要なポイントではないかと思う。

[金委員]

- ・今のこの資料だけで見ると、私はこれに賛成できない。間違えると大変なところになると思う。

[岩佐委員長]

- ・何故ボトルネックになっているのか、何故計画できないのか入念に原因を考察した上で方針を定めていくことが重要かと思う。自動車をスムーズにするというところだけを優先しない方がいい。

[今井委員]

- ・この路線は亀田のメインストリートである。できればモデルケースになるといいと思っている。学生も多く通るし、歩行者も江南区の中だと多い。道路の両側にはお店も多いので、車の出入りがとても多い。そうすると、歩道を自転車が走行していると、お店から出ようとする自動車と接触の可能性も非常に高い場所なので、そういうところも含めて検討してほしい。
- ・この路線は江南区の中では大きな路線なので、出来るだけモデルになるような位置づけとして捉えてもらえるといい。新しい店舗も出店して活性化してきているので、この街づくりの動きを含めて考えていけるといい。

[中村委員]

- ・自歩道活用路線については、視覚障がい者や聴覚障がい者が自転車に気づくのが遅れるということもあるので、きちっとした形で分離できるかどうか、運用面では不安が付きまわっていると思う。
- ・路上駐車についても、特に16時くらいに介護の送迎車が連続して停まっているケースを見かける。バリアフリー歩道で広く整備したところにそういった介護送迎車が乗り上げて止まっているケースを見かけるため、安易に自歩道という形ではなく、こういう条件が整ったらかうであるとか、何かしら方向を明確に示した上で車を抑制すると同時に、ドライバーへの啓発を併せてやっていくことが重要なのではないかと思う。

[高橋委員]

- ・目標値について、まず整備延長についてだが、予算の制限もあって整備延長の伸び率が少なくなっていると思うのだが、この280kmをもう少し早く整備するという検討をされていないようなので、その検討が必要なのではないかと思う。
- ・分担率は、令和4年度は6.7%と低下している。この原因について分析していないのではないか。目標についても「令和4年度より上昇」となっているが、どのくらい上昇すればいいかという議論も必要だと思う。

- ・通行区分順守率は現状の40%から80%を目標としていますが、建前から言うところのこの委員会は100%と言わなくてはいけないのではないかと思います。
- ・駐輪場の整備は、古町地区は随分改善されたのだが、万代地区はまだ改善されておらず、路上駐輪が残っている。新潟駅の北口は工事が進んでいて雑然としているし、南口は相変わらず放置自転車が顕著にあって、これが何も議論されていない。確かに、今後駐輪場が整備されると資料には記載されているが、実際、街の景観を損ねており、皆さんに不便をかけている路上駐輪もまだまだ多いので、検討する必要があると思っている。
- ・シェアサイクルの回転率の目標値1.75というのは、計画時に事業者として提案した数字である。しかし、シェアサイクルは予想以上の利用があり、この1年間の最高だと3.1~4という回転率の日もあった。ただし、天気が悪いと1とか0という日もある。年間を通して1.75を確保できるかということなのだが、事業運営者としてはもう少し良い数字が出るのではないかと考えている。
- ・ヘルメットの着用率については、特にレンタサイクルやシェアサイクルご利用の方に関しては事業に協力してくれるステーションまたはポートに無料でヘルメットを貸し出している。手元にまだ在庫があるので、協力して頂ける店舗があれば、用意する計画を年度内に進めていく予定である。シェアサイクルの数は170台、レンタサイクルは80台あるが、貸し出しているヘルメットは40個でいいのかどうかという妥当性が私自身まだよくわからない。目標値は調整中と記載されているが、本当に調整できるのか疑問である。
- ・シェアサイクルに限って言うと、県外の方の利用が約3割いて、当然旅行者はヘルメットを持っていないので、お客様がヘルメットを被っていないことに対してどう啓発していくかが課題である。そういうところが調整できていない中で、委員会で目標値をはっきり書けるものなのか疑問に思っている。もう少し時間をかけて議論していただきたい。

[事務局]

- ・走行空間については、近年の整備延長から試算したものである。予算的に厳しい中で、もちろん目指すところはネットワークの完成なのだが、令和12年度を目指すというのは現状からは難しいと考え、この目標値を記載したものである。
- ・通行区分順守率については、前回の委員会で金委員からアドバイスをいただいたものであり、8割くらいは最低無いといけないところから目標値として設定したものである。
- ・ヘルメットの着用率については、目標値の設定が非常に難しい。本当に設定できるのかという指摘は正にその通りである。例えば、どこかの都市を例に目標値として設定するのか、何か平均値を設定するのか検討してみたのだが、中々具体的に記載するのが難しいと考え、調整中とさせていただいた。この辺りは委員会の中で議論していただければありがたいと思っている。そもそも、これを目標値として設定するのは適さないのではないかという意見もあると思う。

[涌井委員]

- ・ヘルメットの着用率は、新聞報道だと警察の方で何か所か調査した結果だと聞いている。地域、県によっても調べ方はバラバラなのではないか。

[事務局]

- ・新潟県の3箇所というのは新潟や長岡、上越あたりで調査しているのではないかと考えている。

[涌井委員]

- ・例えば高校生など、対象を絞るのはどうだろうか。もしくは新潟市内で定点観測を行うとか。そういった形できちんとデータを取れるような形の対象に絞ってみるのもいいのではないか。

[岩佐委員長]

- ・目標値については、令和12年度を目標とするが、中間も確認するのではないかな。そうすると指摘の通り、ちゃんとサンプリングできるかが問題かもしれない。方法とセットにしたほうがいいと思う。
- ・例えば、高校生のヘルメットの着用率を何%にするとか計測可能な目標値にして、中間の段階でサンプリングできれば次のステップが設定できると思う。それぞれの数値に関して、どのようにサンプリングするのか、データを取るのか明確に整理しておいたほうが議論しやすいと思う。

[金委員]

- ・通行区分順守率については、最終の目標は100%だと思うし、今回の令和12年度の目標値を100%にして頑張ってもらっても構わない。
- ・通行区分順守率は、街頭指導などを頻繁に行って、金沢市が95%くらいになっていたかと思う。水戸市は街頭指導を春・秋とか月1回、4月であれば毎週行って、ほとんどがもう車道を走っている状態になっても、順守率を計測すると80~85%くらいである。せめてそのくらいを目指してほしいという形で言ったのであって、目標値を100%に設定していただいても頑張るのなら良いことである。
- ・交通分担率については、上位計画の交通戦略プランがあって、そこで分担率が決まっているのではないかな。そこで決まっていないと、この計画で目標値というのは中々決めづらいと思う。

[事務局]

- ・素案に関連計画や上位計画を整理している。交通戦略プランにそこまで明確な数値の記載は無い。

[オブザーバー 岩間さん]

- ・ヘルメットの着用率について、この目標値を決めるのは難しいと考える。そこで、代替案として例えば毎月でも半年に1回でもいいのだが、ヘルメットの着用率はこのくらいだったというデータを県警なり調査機関なりに調査を依頼して、毎月広報したらいいのではないかなと思う。

[岩佐委員長]

- ・まずはサンプリングの方法を決めた方がいいと思う。警察が行っている調査は定期的に観測するデータとして利用できるかどうかということもある。明確なのは定期的・継続的に比較可能なデータの取り方を決める必要があるのではないかなということである。これはヘルメット着用率に限らず、全体的に言えることかもしれない。

[オブザーバー 岩間さん]

- ・委員長の意見に賛成である。一度に結論を出すのが難しい問題は、そういった形で積み上げていくと良い方向が見えるのではないかなと思う。

[高橋委員]

- ・新潟市には学校町というところがあって、そこで10年ほど前に社会実験として高校生のためにペイントを施したり、交通指導強化をしたり、街頭指導をしたことがあった。その地域は高校生が多く、10代の自転車利用者が多いから、そういうところで意見を伺ったり、指導したり、実験的というか模範的なところをつくる活動を行えば、意見もいただけるし、啓発もできる、事故防止にもつながるのではないかなと思う。

[岩佐委員長]

- ・特定強化地域というか、そこで重点的に行うとこのくらい効果が出るということを検証したらどうかという提案かなと思う。この場で決定することはできないが、意見として承りたいと思う。

[金委員]

- ・施策メニューのところに、実施協力体制が記載されているが、そこには組織名が記載してある。新潟市の場合には、「自転車のまち“新潟”の会」だとか、もう10年以上前から自転車の強い味方・応援団がいて、そこがずっと引っ張ってきた背景があると思う。あとは、それぞれ役所間で連携が強いという良いところがあるので、実施協力体制の枠に入れなくても、文言だけでも、市民とか自転車の会を記載すると良いと思う。「連携」は今キーワードになっているので、記載しておいたほうが良い。

[岩佐委員長]

- ・実施体制のところにそういう草の根的な人たちも加えると良いということかと思う。可能であれば検討いただきたい。

【補足】にいがた2kmシェアサイクルについて

[高橋委員]

- ・資料を説明。

[岩佐委員長]

- ・災害時にもシェアサイクルを利用できるような仕組みをどう作るのかというのがポイントなのではないかと思う。
- ・このような移動履歴データはオープンデータとして公開されているだろうか。

[高橋委員]

- ・事業者と役所だけが保有している。

[岩佐委員長]

- ・今後、自転車に関する計画の目標値を設定する時に、サンプリングするデータとしてどのような所で使われているのかということ調べる一つのツールとして利用できるかもしれない。

[涌井委員]

- ・シェアサイクルはサッカーの試合の時に多く使われており、自転車が多くあれば使えるときがあると思っている。レンタサイクル用の自転車を用意したいと思った時に、不法駐輪をリサイクルするような仕組みが組合のほうにあるのだが、長く駐輪場に置いてあった自転車だと使えないものが多い。防犯登録の趣旨から言うと、持ち主の元からどこかにいってしまった時に速やかに持ち主に返したいとか、頻繁に不法駐輪を撤去するなりして、まだ使えるうちに活用できるような形の運用をしていただくと良いと思う。
- ・駐輪場の整備については、地元の人が使うという考えと、観光目的で他県から訪れた人が使うということもあるので、観光に関する部署との連携も必要かと思う。

4. 閉会

－ 以 上 －